

令和 8 年度石巻地方米づくり推進方針

石巻地方米づくり推進本部

石巻地域の令和 7 年産米作付面積は、前年比 360ha 増の 7,100ha であった。

令和 7 年産の水稻の生育状況は、5 月の低温・少照で初期生育が抑制され、茎数の増加が緩慢であった。6 月下旬以降の高温・少雨により過度な中干し状態となったため、穂数は少ない傾向となり、地域によっては渇水・水不足も発生した。出穂盛期は 7 月 30 日（平年比 1 日早）で、その後の降雨と 8 月の気温が平年並みに推移したことから、渇水の影響や高温による品質の低下は少なかったが、9 月の降雨により倒伏や穂発芽が見られた。

作柄は、作況指数 99、10a 当たり収量 525kg（1.9mm 網）の「平年並」で、県全体の一等米比率も 93.0%（令和 7 年 12 月 31 日現在、水稻うるち玄米）と前年を 4 ポイント上回った。

令和 7 年産米は、前年に引き続き、米の収穫期前に主食用米が品薄状態となり、流通価格が高騰したことから、米の概算金単価は前年産をさらに上回る高水準で設定された。

石巻地域の米づくりの振興を図るためには、近年の気候変動に対応した米づくりの体制強化を図る必要がある。また、水田整備率 84%（県：73%）、大区画（50a）化率 64%（県：33%）（いずれも令和 6 年度データ）の大規模水田への整備が進んでいる特徴を生かして、直播栽培やスマート農業技術導入による省力・低コストの米づくりも重点的に進めていく必要がある。

以上を踏まえ、令和 8 年度に優先して取り組む事項を下記のとおりとし、推進事項等を定め、関係機関・団体が一体となって取り組んでいく。

令和 8 年度最優先事項

- ・高温条件化に影響されない栽培管理技術の推進
- ・スマート農業技術や直播栽培の導入による省力・低コスト稲作の推進

1 推進事項と取組項目

（1）気候変動に対応した米づくり

- ア 高温被害を回避・軽減する安定生産及び栽培管理技術の普及
 - ・晩期栽培や晩生品種の導入や直播栽培の普及
 - ・土づくり、水・施肥管理（登熟期間の葉色維持など）等の基本技術の徹底を推進
 - ・飽水管理などの適正な水管理技術を推進
- イ 適期刈取および病虫害防除による品質向上
 - ・刈取適期の目安を稲作情報等で情報発信し、適期刈取りの励行を推進
 - ・斑点米カメムシ類の適期防除と、繁殖源の水田雑草等の耕種的防除の推進
 - ・いもち病等の予防的防除の徹底、多発時における迅速な緊急防除の広域実施
- ウ 高温登熟耐性等に優れる品種の導入・普及推進
 - ・高温登熟耐性等に優れる品種（「つや姫」、「にじのきらめき」等）の導入
 - ・有望系統（東北 247 号）の調査と導入に向けた検討

（２）先進技術等を活用した米づくりの効率化と高度化

ア スマート農業の推進

- ・ＩＣＴ等の先進技術活用による省力・低コスト稲作の推進

イ 乾田直播栽培の取組支援

- ・乾田直播栽培管理技術、雑草対策や省力・低コスト生産の技術向上支援

ウ 大区画ほ場における省力化に対応した栽培管理等の技術支援

（３）需要に応じた米づくりと収益力・販売力の強化

ア 需要に応じた計画的な生産と実需連携の拡大

- ・需給と米価の安定を図るため、主食用米の需要動向に即した作付推進
- ・需要に応じた輸出用米、加工用米等の取組を推進

イ みやぎ米のブランド化と販路拡大の支援

- ・実需が求めるみやぎ米の作付誘導（「ササニシキ」「ひとめぼれ」など）
- ・輸出拡大に向けた販路開拓および米関連食品製造業者への支援

（４）環境と調和した米づくりの推進

ア 環境に配慮した米づくりの取組支援

- ・環境保全米（特別栽培米）の生産指導やＪＡ米Ｓ基準の取組支援
- ・農業生産の改善や効率化につながる各種ＧＡＰの取組支援
- ・みやぎの環境にやさしい農産物認証・表示制度等の周知、啓発及び取組支援

イ 地力向上による収量・品質の安定化に向けた土づくりの取組推進

- ・たい肥・稲わら、土づくり肥料の施用促進、緑肥作物の導入
- ・土壌診断結果に基づく適切な肥培管理の支援

ウ みどりの食料システム戦略の実現に向けた取組への支援

- ・みどり認定取得の推進、Ｊクレジットの取組支援
- ・有機農業取組者への栽培技術助言と指導

（５）災害等に強い米づくりの推進

ア 鳥獣被害防止対策の推進

- ・侵入防止柵の設置、有害鳥獣の捕獲及び農地周辺の刈払い等を推進

イ 各種気象災害等に備えた生産支援体制整備

- ・被害の軽減化に向けた関係機関の連携強化

ウ 津波被災復旧水田における生産安定化の推進

- ・復旧水田における地力向上のための土づくりを推進